

# 9か月かけた初優勝

## 自分のゴルフに徹する

### 最終日ベストスコア68で逆転

《第55回九州女子選手権競技》

通算4アンダー 212

福岡第一高1年・橋本ゆう（ミッションバレー）



【写真は優勝した橋本ゆうⓂと父・慎太郎さん】

準備の勝利である。昨年8月、「日本ジュニア選手権」12～14歳の部で橋本（当時日の里中）は10オーバー154のスコアで38位タイに終わった。同学年のライバルである廣吉優梨菜（当時折尾中）は6アンダー138で優勝。その差は16打。この

大会終了後、橋本の目の色が変わる。「一番大きい大会の来年の九州女子アマの優勝を目指そう」。そのためにまずは飛距離アップと体力強化に取り掛かる。その効果は徐々に始まる、ドライバーの平均飛距離は205ヤードから220～225ヤードに伸びる。精神面では「自分にプレッシャーをかけて崩れた」ケースを反省し、周りや結果を気にせず「とにかく自分のゴルフに徹する」と呪文のように唱えるようにした。

さらに、今年3月の「全国中学校ゴルフ選手権春季大会」でも苦い薬を飲むことになる。バンカーから「ホームラン」を経験。アプローチやパターも思うようにいかない。結局、この大会は14オーバー230で12位。廣吉はと言うと、4アンダー212でまたも頂点である。悔しくないわけがない。この後からは小技を徹底的に練習する。5月のゴールデンウィーク中も所属コースのミッションバレーGCで徹底的にパットやアプローチ練習に励んだ。今大会で廣吉に勝って「めっちゃ嬉しい」ととびきりの笑顔を見せた。橋本は廣吉のスイングの動画を見て研究するほどで一目も二目も置く存在。目標を達成した上にライバルへの勝利で喜びもまた格別である。

廣吉とは同じ福岡第一高へ通う仲のいいお友達。乗車駅は異なるが、2人は同じJR鹿児島線で通学する。学校の最寄りの竹下駅で待ち合わせて校門まで徒歩で20分間、いろんなおしゃべりをする。「ナショナルチームはどんな練習をするのか、トレーニングの方法とかを聞いたりします」。ナショナルチームの一員である廣吉は橋本のゴルフ向上には欠かせない「コーチ」なのだ。

9カ月間で蓄えた要素を詰め込んで臨んだ大会。初日は1アンダー71で3位タイ、2日目は1オーバー73で通算イーブンパーとなって4位タイ。そして首位と2打差で迎えた最終日である。2番で1・5mを沈めて幸先のいいバーディー。ところが、4番ロングで第1打が左のバンカーにつかまり、おまけに目玉。1度で脱出できずに5オン2パットのダボ。これまでの橋本だったら、このホールをきっかけにスコアを落としていたかもしれないが、今回は違った。「どうにかなる。自分のゴルフ、自分のゴルフ」と心の中で呟いてプレーに集中した。6番で3・5m、9番で4mを沈めアウトを35でまとめると、バックナインを3バーディー、ノーボギーの33。「パットが良かった。

(最終日は)満点です」と振り返ったが、必死の練習が実を結んだのである。試合での68はこれまでの自己ベスト69を1打上回った。

今大会は初日の20日が31度と、この時期にしては体にこたえるほどの暑さ。橋本は毎ホール水分を補給して暑さ対策を行った。逆に22日の最終日は霧雨が覆って6mの風が吹き、午前11時の気温が18度。体感温度は15度前後の寒さだった。橋本は体をいたわるためにレインウェアを脱がずにラウンドした。プレーに集中するための環境作りも怠らない。

家族のサポートも見逃せない。橋本は父・慎太郎さん(43歳)の練習について行って小学校1年からゴルフを始めた。警察職員の父は練習にも付き添い、今春、兵庫県三木市での全中春季大会に帯同。今大会も3日間、一人娘のプレーを見守った。福岡県宗

像市の自宅近くに住む祖父母は車での送り迎えなどで孫をサポート。「みんなのお陰です。感謝しています」と橋本が家族に頭を下げると、慎太郎さんは「やってきた甲斐がありました」としんみりと語った。優勝カップを手にした5月22日は、母・葉子さんの44回目の誕生日。何よりのバースデープレゼントとなった。

これまで優勝とは縁のなかった橋本が九州女王として初めて日本女子アマに臨む。昨年、一昨年と出場権を獲得できなかったが、3度目の挑戦でジャパンの舞台に立つ。「もっといろんなことを学べると思います。自分の実力を上げられる。自分のベストを尽くしたら、どこまで行けるのか楽しみです」と約1カ月後を見据えた。全国を相手にしても「自分のゴルフ、自分のゴルフ」と呟きながらラウンドする。

## 《2位・新垣くらら》



最終日最終組の3人はいずれも沖縄・カヌチャゴルフコース所属という珍しい組み合わせとなった。仲のいい3人だけに笑顔や笑い声が絶えないラウンドとなったが＝写真、吉崎マーナと小潮川せりの2人は優勝争いから脱落。新垣くららだけが踏ん張った。最終日首位でスタートした新垣はアウトを37、インに入ると10番から3連続バーディーで

一気に乗るかと思われたが、13番で3オン3パットのダボ。このホールの「6」が後々まで響いて、初優勝に1打足りず2位。「13番の3パットはもったいなかった。流れを切ってしまった。でも、3日間安定したゴルフができたのは良かった。日本女子アマでは優勝を目指します」と元気に語った。